星から降りてきた神様

佐賀　彩美（さが　あやみ）
アイヌ語地名研究会

北海道出身。北海道大学法学部卒業。モントレー国際大学院（現ミドルベリー国際大学院モントレー校）通訳翻訳学科修士課程修了。全国通訳案内士。

アイヌ民族の伝承のなかには星に関するものがあります。まず、生活の知恵として、北極星が動かない星であることは知られており、山で道に迷ったときや、海に航海に出たときの位置確認に利用していました。北極星はアイヌ語ではチヌカㇲクㇽ（ci－私たちが nukar－見る kur－お方）です。「kur－お方」という表現に、アイヌの人々が星をどのようにとらえていたかがよくわかります。さらに、秋になると空気が澄んでくるからでしょうか、星が近く見えると鮭の遡上が始まると判断したりもしていました。

夜空で最も目立つのは天の川です。アイヌ語ではペッノカ（pet－川 noka－形）といいますが、人々は、天空（あの世）は地上の大地を反転するように形作られていることから、天の川も地上の河川を写していると考えていました。また、天の川の源流には亡くなった人が行くところがあるとも信じられていました。和人は亡くなったら天に帰るといいますが、天のどこかとは聞いたことがありません。天の川にそのような場所があるなら本当に行ってみたいと思います。

アイヌ民族の祖先神にアエオイナカムイ（a－我々が e－それ/業績を oyna－伝承する kamuy－神様）という神様がいますが、この神様は、人文神、文化神といわれ、人間にあらゆる知識や技術を授けたということです。オイナという言葉は沙流川地域以外では神々の物語のことも指し、オイナマッ（oyna－尊ぶ mat－ 女性）は尊い女性を意味します。アエオイナカムイは別名アイヌラックㇽ（aynu－アイヌ rak－らしい kur－お方）とも呼ばれ、文字通り姿は人間であってもその能力は神そのものということです。この神様は星から降りてきたという伝承があり、ノチウペランクㇽ（nociw－星 pe－水 ran－降りる kur－お方）ともいいます。peはおそらくpet=川の短縮形だろうということで、星の川、つまり天の川から降臨したことになります。旭川市内を流れる石狩川に流入するオサラッペ川の河口付近にも星が落ちてきてノチウという名の大岩になったという場所があります。最近の科学者の研究では、地球に生命が生まれたとされる40億年ほど前、隕石が地球に降り注いだ期間があり、当時地球上に存在した窒素や二酸化炭素に高温、高圧の隕石が衝突することで生命には欠かせないアミノ酸ができることが実験で確認されています。ですから、人類の祖先が星からやってきたという伝説も単なる架空の物語ではない可能性もあります。沙流川地域では、アイヌラックㇽは雷に乗って現在の平取町のハヨピラという高台（崩落の危険があるため現在は立入り禁止）に降臨したことになっています。時系列的には、アイヌラックㇽが人間に知恵を授ける前に、モシㇼカㇲカムイ（mosir －国土 kar－創造する kamuy－神様）という巨人が大地を造り、そのあと人間を創りました。そのとき、モシㇼカㇲカムイが柳の枝を人体の基本構造に採用したため、人間は年をとると腰が曲がるのだそうです。

アイヌラックㇽが、まず人間に教えたのは火を起こすことで、火起こしに使われたのはハルニレの木だそうです。先にも述べましたが、この神様は、雷とともに地上にやってきたとされます。雷がハルニレの木に落ちたときに木が裂け、アイヌラックㇽがそこから生まれたとされることと、火起こしにハルニレが使われることには深い意味があるのでしょう。

＊本稿は、アイヌ語地名研究会会長、藤村久和先生を講師として（一社）北海道開発技術センターが自主事業として実施しているアイヌ文化勉強会の内容を、藤村先生監修の下、筆者が取りまとめたものです。

藤村　久和　氏　北海学園大学名誉教授　北日本文化研究所代表　アイヌ語地名研究会会長
アイヌ学全般（精神文化・口承文芸・衣食住・民族医療(整体ほか)等）を研究領域とすると共に、アイヌの人々が自然を管理することなく、いかに共存してきたかについて、その思想や哲学を自ら学び・実践している。また、アイヌ民俗文化財調査（北海道教育委員会）に従事し、道内に居住する古老の伝承話の聞き取り作業を行い、その成果が例年報告書として刊行され、資料篇等も随時刊行している。近年は、食育コーディネーターとして北海道の食育計画にも参画する。
主な著書：『アイヌの霊の世界』（小学館、1982年）、『アイヌ、神々と生きる人々』（福武書店、1985年）、『アイヌ学の夜明け』（梅原猛氏との共編、小学館、1990年）、『アイヌのごはん』（監修、デーリィマン社、2019年）、『平成20～令和４年度アイヌ民俗文化財調査報告書アイヌ民俗技術調査１～14』（北海道教育委員会、2008～2023年）等。